

GCOE 国際会議出席報告書 (外国旅費用)

拠点リーダー 川合 光 殿

(ふりがな) 氏 名	ただ やすひろ	所属・職名	指導教員名 (院生の場合)
	多田 靖啓	凝縮系理論	川上則雄 教授
Tel,Fax e-mail	tada@scphys.kyoto-u.ac.jp		
発表題名	Upper critical fields in noncentrosymmetric superconductors CeRhSi ₃ , CeIrSi ₃ near quantum criticality		
著者名	Y. Tada, N. Kawakami, and S. Fujimoto		
会議名称 ・開催期間	Quantum criticality & novel phases 2009 自 2009年 8月 2日 ~ 至 2009年 8月 5日		
開催地 (国、市)	Dresden, Germany		
出張期間	自 2009年 8月 1日 ~ 至 2009年 8月 9日 (8/6-8/8はスイス ETHに滞在)		
国別参加者数	トータル：約400名、日本：約40名		
<p>発表内容、聴衆の反応、質疑応答、その他について簡潔に記述してください。 (口頭発表・ポスター発表の別も文中に明記すること。)</p> <p>発表内容：会議では、空間反転対称性のない超伝導体 CeRhSi₃ と CeIrSi₃ の上部臨界磁場に関して、理論的研究をポスターにて発表した。簡単な理論モデルによって、スピン揺らぎ誘起超伝導という立場から、これらの物質における上部臨界磁場の実験結果が定性的に説明できることを示した。</p> <p>聴衆の反応：会議では、実験家からは、本研究が実験をよく説明することを納得してもらえたようである。また、理論家からは細かい質問が多数あった。モデルの設定の仕方やパラメータのフィッティングなどについてである。しかし、本研究で用いているモデルや手法自体は、基本的には、この分野ではよく知られたものであるので、わりと納得してもらえたようである。</p> <p>質疑応答：ETHにおけるセミナーでは、学生から基本的な質問をいくつか受けた。私の英語が拙いために誤解を招くような表現をしてしまった点もあり、反省が必要である。超伝導に詳しくない学生も何人かいたが、発表内容はだいたい理解してもらえたようである。</p> <p>その他：ETHの訪問先である M. Sigrist 教授、およびその学生たちと SrRu₂O₄ や空間反転対称性のない超伝導体について広く議論した。また、ドレスデンの会議では CeIrSi₃ の中性子散乱実験をされている方に実験の現状を非常に詳しく教えていただくなど、大変有意義な時間を過ごすことができた。</p>			